

2022年度 環境ラウンド

～助言内容と各施設の良い取り組み～

1. 事前の備え……………	1～8
2. 病原体の持ち込み防止……	9～12
3. 手指衛生……………	13～15
4. 消毒……………	16～20
5. 環境整備……………	21～25
6. PPE（防護服）……………	26～32
7. 汚染物の処理……………	33～36
8. 吐物処理……………	37～40
9. コロナ陽性者発生時の対応	41～45
10. その他の対策……………	46～48

1. 事前の備え

BCP（事業継続計画）の作成

- ◆BCPのひな型に当てはめていく形で作成するのもよい
- ◆クラスター発生時のことを振り返り、BCPに盛り込む
- ◆BCPは災害時だけでなく、感染症発生時の備えにもなる
- ◆コロナ陽性者が複数発生した時のゾーニングについて考えておく



1

感染対策マニュアル

- ◆いざクラスターが発生すると慌てることがあるので、事前にマニュアルを作成し誰かが監査役となってチェックする
- ◆5W1Hを意識して作成すると職員が動きやすい
- ◆他のマニュアルとは別冊にし、いつでも確認できる位置に置く ※情報が更新される頻度が高いため
- ◆設置場所を全職員が確認しておく
- ◆定義等、適宜変更がある感染症については、通常のマニュアルとは別にする。日報にして情報共有するとよい



2

良い取り組み

BCP・マニュアル作成

- ◆クラスター発生時のことを振り返り、マニュアルを見直している
- ◆陽性者対応について細かく想定している
- ◆コロナ流行期～陽性者判明までの対応が細かく決められている
- ◆検体採取時の動線、誘導者、検体採取者を決めている
- ◆BCPやマニュアル、研修が看護師主体で実施できている



3

感染対策の教育

- ◆ポスター掲示（手洗い方法、手指消毒のタイミング、手洗いミスが起こりやすい部分等）
- ◆手洗いや手指消毒方法を定期的に訓練する
- ◆蛍光塗料を用いたPPE着脱訓練
- ◆着脱訓練を実施した際は記録に残しておく

ガウンテクニックは忘れていくため、繰り返し演習しましょう



4

良い取り組み例

感染対策の教育

- ◆陽性者発生時のゾーニングのシミュレーションを行っている（例：1つの部屋をレッドにし3名収容。ポータブルトイレ設置）
- ◆全職員にPPE着脱訓練を行っている
- ◆ミーティングで資料の読み合わせを行い、テストで理解度を確認している
- ◆動画視聴後にホーム長にレポートを提出している
- ◆感染症に関するポスターが掲示されている
- ◆クラスター発生時の実際の対応を施設全体で振り返っている



5

良い取り組み例

情報共有

- ◆スタッフのグループラインでリアルタイムに情報共有している
- ◆法人内の別施設で起こった陽性者対応等について情報共有している
- ◆物品や感染症発生状況等法人内での連携がとれている
- ◆施設内会議で市内の感染症発生状況を確認している



6

陽性者発生時の対応について

- ◆法人内での応援体制の構築を進めておく
- ◆事前に嘱託医と、クラスターとなった場合の対応について話しておく
- ◆入院調整時に必要な情報をそろえておく。DNAR（心肺蘇生を行わない）を確認しておく



7

良い取り組み例

相談体制の整備等

- ◆3か所の往診医に、有症状時や感染拡大時に相談でき、往診に来てもらう体制がある
- ◆嘱託医や特養の看護師への相談体制が整っている
- ◆感染対策委員会に医師も参加している
- ◆カルテが整備され、DNARについて確認している
- ◆患者情報を電子化しタブレットで管理している
- ◆看取りについての同意書をとっている



8

2. 病原体の持ち込み防止

良い取り組み例

職員の感染対策

- ◆発熱以外の体調も記録している
(体温・咳・咽頭痛・鼻汁・胃腸症状等)
- ◆体調不良があったことをいち早く把握できるように、休みの日の体調も記録している
- ◆職員自身や家族が体調不良の時は休める体制ができています
- ◆利用者と職員は一緒に食事をしない
- ◆感染症流行時は勤務するフロアを固定している



9

面会

- ◆あらかじめ感染症流行時の面会制限の基準を決めておく
例：2人以内、15分
- ◆長時間にならないようにタイマーをかける
- ◆居室で面会する時もお互いにマスクを着用するよう声かけする



10

換気

- ◆換気扇を活用する
- ◆換気扇のダクトの詰まりがないか確認する。汚れている場合は換気能力が落ちるので掃除をする
- ◆1時間に10分程度や常に数cm窓を開けて換気する
- ◆入浴の際は一定方向に風が流れるように換気扇を付け、扉を20cm程度開放しておくとうい
- ◆CO2モニターなどを利用して施設内の換気の状態を確認してもよい



11

良い取り組み例

入居者の体調確認

- ◆毎朝体温、血圧を測定。症状の有無を確認している
- ◆認知症で体調不良の訴えができない人が多いため、気になるバイタルサインの場合は赤丸をして午後に再検している
- ◆入居者が外泊する際に健康チェック表を持ち帰ってもらい、自宅での健康状態も確認している



12

3. 手指衛生

手洗いと手指消毒

- ◆手洗い後すぐに手指消毒すると手荒れしやすいため、手洗いまたは手指消毒のどちらかでよい
- ◆目に見える汚れがある場合は手洗いする
- ◆ノロウイルスはアルコール消毒薬が効かないため、感染性胃腸炎の流行期は特に手洗いする

洗面所の消毒や手指衛生が不十分なため感染拡大となるケースが多いです。

普段からの感染対策を行う事が大切です



13

ハンドソープ

- ◆菌の繁殖を防ぐため容器は継ぎ足しせず、洗淨し乾燥させる
→複数容器があった方がよい
- ◆職員トイレ、入居者トイレに液体石鹸を設置する



15

良い取り組み例

手洗いチェック

- ◆手洗いチェッカーがあり、職員の手洗い方法の確認や教育に使用できる
- ◆手洗い場に手洗い手順を掲示している



14

4. 消毒

アルコール消毒薬

- ◆アルコールは半年～1年で消毒効果が下がるため、開封日を記入し半年程度で使い切る
- ◆容器に日付やメモリを付けると使用量が分かる
- ◆空間や衣服へのアルコール噴霧は効果がない
- ◆携帯用ポーチがセットになっている消毒液を購入するのもおすすめ

PPEの上からや脱いだ後にアルコール消毒薬を全身に噴霧しているという施設が多くありました。空間や衣服への噴霧は、製剤によって吸引毒性がありお勧めしません。



16

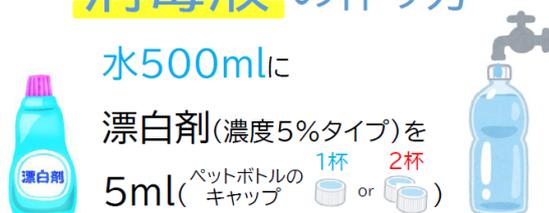
良い取り組み例

消毒薬



- ◆アルコール消毒薬を個人持ちにしている
- ◆次亜塩素酸ナトリウムの希釈液の作り方をペットボトルに記載しており、誰でも作成できるようにしている

家庭用漂白剤を使った 消毒液の作り方



※ 作るときは換気をして、ゴム手袋をはめてください。
製品に記載された「使用上の注意」を読んでから作業を。

キャップ1杯：ドアノブ、テーブル等手が良く触れる所
キャップ2杯：吐物や便などがついた床、衣類など 17

次亜塩素酸ナトリウムの取り扱い

- ◆次亜塩素酸ナトリウムは、高温な場所や日光（紫外線）に当たると分解するため冷暗所で保管、または遮光する
- ◆ペットボトルで作成する場合は、誤飲のリスクがあるため、内容物が分かるよう消毒薬名を記載する
- ◆作り置きしない
- ◆環境消毒は0.02～0.05%の濃度で消毒する
原液5～6%→500mlの水に消毒液キャップ1杯



十分な量と時間
(20秒以上) 使用
しないと、消毒効
果が得られない可
能性があります

18

環境の消毒

- ◆ペーパータオル等に噴霧してから清拭し消毒する。※消毒薬は直接噴霧しない
- ◆空間噴霧は吸引毒性があるため推奨しない
- ◆有機物を先に除いてから消毒する
- ◆S字拭きを行う。手すりはねじりながら一方向に拭く
- ◆アルコールは次亜塩素酸ナトリウムに比べると高額。環境整備は次亜、手指消毒はアルコールを使用する等場面によって使いわけてもよい



19

物品の消毒

- ◆質問「MRSAなど薬剤耐性菌保菌者のコップは、他の患者と分けて消毒した方がよいか？」
→特に分ける必要はなく、洗浄・消毒を適切に実施することで問題ない。検査していないだけで保菌している人はたくさんいる



20

5. 環境整備

環境整備

◆事務作業エリアにとろみ粉や看護用品、患者の物品が混在している。→作業場を分ける

◆休憩室の仮眠時のシーツ交換が週1回
→顔周りはマイタオルを敷き毎回交換する



21

水回り

◆新しいペーパーが滴で濡れないように、ペーパーホルダーは横向きか下から取り出すように設置する

◆水回りは汚染しやすいため、ビニール手袋やペーパータオルは水はねしないところに置く

◆歯ブラシ…最低でも床下から30cm以上の高さで保管する



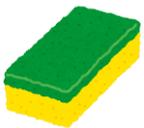
22

スポンジの取り扱い

◆洗面台のスポンジは水回りの微生物の温床になるため、定期的（週1回程度）に交換する

◆緑膿菌の繁殖を防ぐため乾燥させる

◆居室のスポンジも定期的に交換する



23

良い取り組み例

水回り

◆水回りに不要な物が少なく、整頓整頓され、乾燥している

◆手洗い場に手洗い手順の掲示あり

◆ペーパーホルダーの使用あり

◆液体せっけんを継ぎ足していない



24

良い取り組み例

環境整備

- ◆共有物品（櫛・爪切り等）が少ない
- ◆消毒する箇所や消毒時の注意点を写真で見やすく掲示している
- ◆デイサービス利用者と入居者が交わらないようビニールカーテンで区切っている



25

良い取り組み例

PPEの備蓄

- ◆ストック管理ができており、整理整頓されている
- ◆個人防護具、手指衛生物品、抗原検査キットを多数備蓄している
- ◆エプロンは約1000枚備蓄がある（入居者約50名の施設）
- ◆陽性者発生時に対応できるよう食事用のディスポ容器など備蓄がある



27

6. PPE(防護服)

防護服（PPE）の保管・取り扱い

- ◆湿気の少ないところに保管する
- ◆すのこを敷いて保管する

※床に段ボールを直置きしていると、水にぬれた場合、菌が繁殖する

- ◆フェイスシールドは内側→外側の順番で消毒する。曇ったら洗剤で洗い、干してもよい

マスクなど5年程度で劣化する物があるため、古い物から使用するよう「右側から順番に使う」など決めておくようにしましょう



26

PPE着用

- ◆入浴介助時に手袋は不要である
- ◆質問：入浴介助時、職員はフェイスシールドを装着した方がいいか？
回答：入居者からの感染を防ぐにはフェイスシールドが必要だが、多くは職員から入居者に感染する。職員から入居者への感染を防ぐためならマスクのみでもよい。
- ◆利用者の咳や痰が多い時は、エプロンとアイシールドを着用する

目からの感染を防ぐため、食事介助・吸引・口腔ケア時にはアイシールドかフェイスシールドを着用しましょう



28

エプロンの交換

◆排泄介助時は、入所者ごとにエプロンを交換する

◆おむつ交換は布エプロンを使用しているが、菌を媒介させる原因となるため、ディスポエプロンを使用し、1処置する度に廃棄するほうが望ましい

排泄介助時、入居者ごとにエプロン交換をしない施設が多い状況でした。エプロンを介してESBL産生菌などの耐性菌を運ぶこととなりますので、コスト面の問題もあると思いますが「ケア」交換をお勧めします



29

N95マスクの使用・備蓄

◆定期的に装着方法を確認しておく

◆鏡の前で装着し、ユーザーシールチェックをする

※両手でマスクを覆い、息を吸ったり吐いたりして空気の漏れをチェックする。空気が漏れている場合はゴムバンドや鼻当てを調整し密着させる



1 両手で鼻あてを押さえながら、指先で押さえつけるようにして鼻あてを鼻の形に合わせます。

2 両手でマスク全体をおおい、息を強く出し空気が漏れていないかユーザーシールチェックを行います。

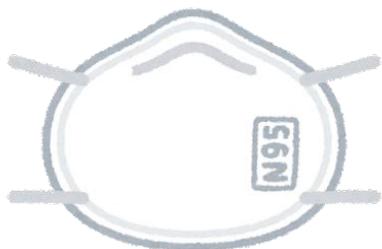
30

N95マスクの使用・備蓄

◆使用後のN95マスクを再利用する場合は1つずつ紙袋で保管する。

◆1日使った後は72時間後に再利用できる

◆繰り返し使用でき、水で濡れてしまったり、フィットしなくなった場合は捨てる



31



32

7. 汚染物の処理

汚物処理室

- ◆尿器は防水シートに逆さまにして保管する。しっかり中を乾燥させるようにする
- ◆汚物流し台に清潔な尿瓶が掛けられている
→汚物流し周囲は汚水が飛び散るため、置き場を替える
- ◆洗剤等は床に直置きしないように横の棚の中に保管する

汚物室の水回りは汚染した水が飛散している可能性があります。周囲になるべくものを置かないようにしましょう



33

汚染リネンの取り扱い

- ◆便汚染した衣服を洗う時はエプロンを着用
- ◆清潔なりネンと汚染リネンの保管場所を分ける
- ◆リネンの籠は直に床に置かず、すのこを敷く。
- ◆便汚染のあった衣服は、洗剤を入れたバケツで洗浄後0.1%次亜塩素酸ナトリウムで5~10分消毒する。酸素系漂白剤は使用しない



35

オムツ交換カート

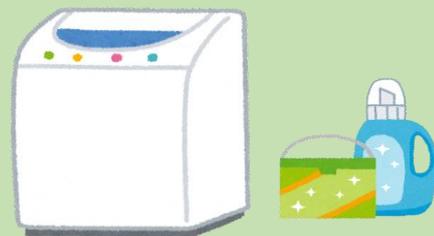
- ◆汚物用バケツは置かない
- ◆汚物はビニール袋に入れ、ビニール袋ごと破棄する
- ◆積載する物は極力減らし、汚染されたものと清潔な物とを明確に分ける



34

良い取り組み例

- ◆清潔用と不潔用の洗濯機を分けている
- ◆清潔用を保管する場所と汚染リネンを回収する場所を分けている



36

8. 吐物処理

吐物処理

◆各フロアのすぐ取り出せる場所にセットしておく

◆セットに手袋やエプロンが箱ごと入っていると、嘔吐した所に持って行き全て汚染される可能性がある。1回使用分を袋に入れて管理した方がよい

◆次亜塩素酸ナトリウムは使用する時に希釈する。※水で薄めた時から消毒効果が下がっていくため

◆ノロウイルスはアルコール消毒薬で手指消毒できないため手洗をする



37

吐物処理セット

・空のペットボトル等（消毒液、水の分量を記載）

・次亜塩素酸ナトリウム（ハイター、ピューラックス等）

・ゴミ袋



・ペーパータオル

・使い捨てエプロン・手袋・マスク・シューズカバー

・吐物処理の手順、次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法をラミネートしたもの

38

良い取り組み例

吐物処理演習

◆ノロセットの準備や演習をしている

◆次亜塩素酸ナトリウム液をすぐに作成できるように、紙コップやバケツに線を引いている



39



40

9. コロナ陽性者発生時の対応

- ◆利用者にもできるだけマスクを着用してもらう
- ◆感染症発生時に窓口となる職員が陽性になった場合、ほかの担当者が対応できるように情報共有しておく
- ◆陽性者のトイレ等を専用にし、他の入居者と接触しないように誘導する
- ◆認知症で部屋から出てきてしまう人が感染した時は、感染していない人に個室にいてもらう方法もある



41

PPE着用

- ◆着脱場所に手順を掲示し、できるだけ2人1組のペアで確認しながら着脱する
- ◆着衣してからレッドゾーンに入り、レッドゾーンから出る前に脱ぐ
- ◆脱ぐ時に感染リスクがある。脱ぐ回数を減らすために、複数陽性者を対応した後に脱ぐ
- ◆身体接触が少ない時は、最低限のPPE着用でよい（例：会話のみの時はマスク・ゴーグル等）
- ◆シューズカバーは、脱ぐ時に感染するリスクがあるため必須ではない



42

良い取り組み例

- ◆介護・看護のみならずリハビリスタッフや事務職員が協力する体制ができている
- ◆クラスター発生時は1階と2階で職員を固定。各階で完結できるように、2階は外階段から出入りする等想定している
- ◆体調不良や濃厚接触の段階できちんと休みを取り、職員間や利用者への感染拡大を防いでいる。体調不良の利用者も抗原検査を積極的に行い対応できている



43

- ◆濃厚接触者の職員は5日待機後、抗原検査で陰性を確認してから出勤している
- ◆陽性者対応の際には非常階段を活用して動線を完全に分けることができている
- ◆クラスター発生時のマニュアルを作成し、各階に設置している



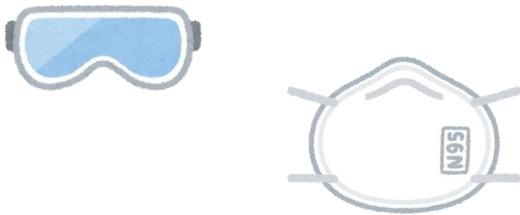
44

コロナ陽性者のケア

◆吸引や口腔ケアを行う時はN95マスク、ガウン、ゴーグルを着用する。（エアロゾル感染防止のため）

◆ポータブルトイレに排泄する場合は、オムツを敷いて尿を吸収させ2重の袋に入れて破棄すると処理しやすい

◆汚物は2重のビニールで包んだ後、3日置いてから破棄するほうがよい

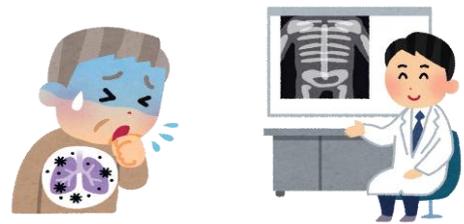


45

10. その他の対策

◆長引く体調不良時は結核も疑い、早期受診・レントゲン撮影を勧める

◆あかし保健所管内の感染症発生状況を毎週更新しており、近隣地域の感染状況を把握できる
検索ワード「明石市 感染症」



46

良い取り組み例

◆入所者の健康診断を行い、施設で胸部レントゲン結果を把握している

◆マスクの着用が難しい利用者に対しても声掛け促しができてほとんどの方が着用できている

◆食堂での食事を2部制とし、全員が一方向を向いて食事を摂るように配置している



47



あかし保健所 保健予防課
2023年3月

48